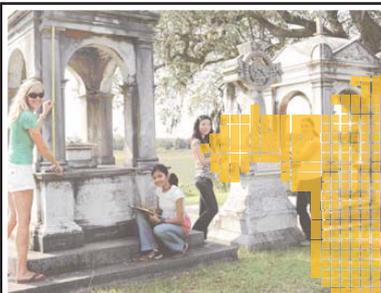


残暑の送別・歓迎・祝いの宴 世界へ羽ばたくデザ研卒業生

text_shiozawa



台風9号が直撃して世間は大騒ぎでしたがなんのその、博士号を取得し母国中国へ帰国する韓昊英さん(D3)の送別会、10月入学でこの秋修士課程卒業の鄭一止さん(M2)の卒業祝い、そしてオーストリアはウィーンに1年留学していた竹山奈未さん(M2)、アメリカ、チャールストンに3ヶ月留学していた宋珍和さん(D2)の帰国歓迎会と盛りだくさんの内容で9月6日に宴が開かれました。ここデザ研を卒業したメンバーが世界で活躍して、一緒に働けることを楽しみにしています。という教授のお言葉を心にとめて、乾杯!



>作業中@Magnolia Cemetery

サウスカロライナのチャールストンはイギリス王チャールズの名に因み1670年建設された都市で、1931年アメリカで初めて歴史的まちなみの保全のためのゾーニング条例を制定、昔からの歴史的な景観を守るためのあらゆる工夫をこらしている。普通のアメリカ的な都市らと違うヨーロッパ的な風景-ヒューマンスケールの古めかしい18世紀の建物、ストリートウォールなどでアメリカで一番徒歩旅行しやすいところとして有名。災害・再建築などによる消失からの保護のため、市はほとんどの歴史的建物を管理リストに登録・データ化している。

留学報告日記こんな毎日でした。

M2 竹山奈未

私はウィーン工科大学建築学科ランドスケープアーキテクチャ研究室に1年間お世話になり、ブラチスラバを対象地とした設計課題と論文のテーマ探しを主にしていました。大学が市の中心部なので、近くに国立オペラ座や楽友協会があり、広場を観察したり、本物のクラシック音楽にふれたり、大変恵まれた環境で都市の文化を味わうことができました。



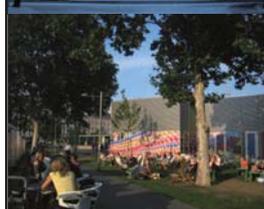
右/設計仲間
上から/クリスマス
マーケット/karls教
会/カフェ

私の作業は、レインボー街のピンクハウス及びMagnolia Cemetery内のモニュメントのデータ化作業、古い歴史的な建物の補修のためのコンディションアセスメント、そして色々な国間の文化交流(社会文化及び遊興文化も)等等。チャールストニアン町の並み保全についての興味と知識水準は吃驚するほど高かった。



>ICOMOSでの
ファイナルブ
レゼンのため作
成した報告書の
一部(まち紹介・
仕事・遊び)

>住んでたところ(43 Radcliffe Street)とオフィスがあったところ(College of Charleston)



大学ではメインの設計スタジオは週に1回なので、他の日は設計仲間の家や演習室での設計、もしくは、都市デザインの講義、スケッチの授業、模型演習にて、夕方は語学学校に通うという日々でした。週末には毎週のようにパーティがあって、トルコ、ハンガリー、マセドニア、タイ、、、各国料理を堪能しました。

後半は様々な都市を旅して(北へ南へ計10回!!)、6、7月にはランドスケープ事務所でのインターンをし、日本庭園プロジェクトを担当しました。また、事務所は5時までで、9時頃まで明るいので5時以降に友達とドナウ川に行って泳いだり、ウィーンの森を散歩したり、ナッシュマルクト(市場)で飲んだり、そこまであくせくしない働き方でした。そう、都市のすぐ近くに、自然がある。それが、Angenehm!!なんです!



建築学会大会発表in九州 +夏の周遊旅行記、各地からお届けします

text_shiozawa

去る8月29日～31日の3日間、福岡大学（七隈キャンパス）にて、建築学会大会が開催されました。その前後で、多くの研究室メンバーは九州を中心として各地に飛び、この夏をダイナミックに過ごした模様。

学会発表

D1 鈴木智香子

都市デザイン研究室からは14名が、博論、修論、卒論、プロジェクト（八尾、喜多方、新宿）など、日頃の研究成果を発表しました。発表に与えられた時間はわずか6分でしたが、それぞれ充実した内容で、会場から質問が飛び交う場面もありました。

建築学会大会では、普段はなかなかお話を聞くことのできない先生方による研究協議会やパネルディスカッションも楽しみの一つです。西村先生もパネラーとしてお話された「近代の空間システムと日本の空間システムの形成と評価」や「生活景のポテンシャル」など、研究室メンバーも色々な会場をはしごしていました。

そして、夜はみんなでまちへ。鉄板ぎょうざや水炊き、屋台で博多ラーメン・・・と、福岡の食文化も堪能しながら、お互いの日々の研鑽活動の労をねぎらうのでした。

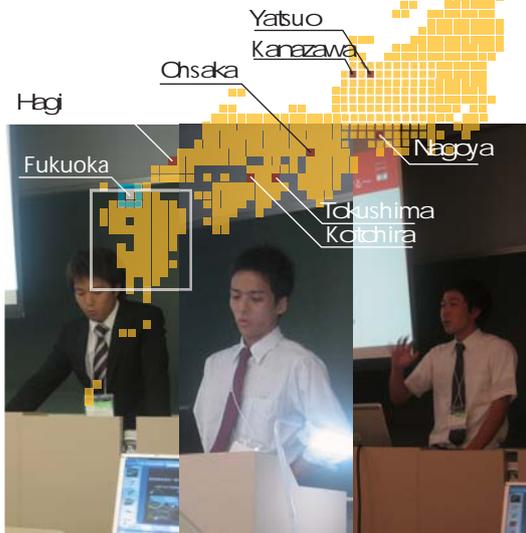


福岡

D2 中島伸

建築学会大会の前日に福岡に入って、一日現代建築巡りをしていました。磯崎新氏プロデュースによる集合住宅ネクサスワールド（その隣には高度成長期の団地があり、時代の流れが見てとれてとても印象的）、その先にある開発中の臨海部のアイランドシティ中央公園核施設、伊東豊雄設計のぐりんぐりん。地形と建築の壁面天井がひと続きになっており、全く新しい公園の姿が見ることができました。

Kyushu!



阿蘇

M2 ウィチエンブラディット・ボンサン

学会での発表を終えたメンバー一行は九州のど真ん中「阿蘇山」へと向かった。阿蘇周辺の空は雨模様だったが、山頂へ車で上がってみると雲間から光が差し、草千里ヶ浜バックに青春のワンショットを撮る事ができた。その日の夜は山麓でBBQを楽しみ、翌朝は外輪山から世界最大級カルデラの雄大さを14の瞳で確認した。都市の中とは違う大自然の中の人間のちっぽけさを感じる一時であった。

長崎

個人旅行と学会の狭間の二日間、長崎にて北沢研の研究室旅行に飛び入りでお邪魔して、南山手のまちあるき、軍艦島クルージング、長崎のアーバンデザインシステムを学びつつ、その事例である県立美術館や公園の見学をしました。そしてこの旅行をコーディネートしてくださったのが当研究室のOB、長崎県庁の國廣正彦さんでした。事業の裏話まで含めた幅広いお話で非常に実りある旅行となりました。ありがとうございました!!



門司港

M1 矢原有理

駅からして文化財というレトロな地区。しかし、想像していたより新しい建物が多く、高層マンションも見られたこと、全体として観光地化していたことが残念だった。その後関門海峡を渡り山口県を北上し、萩から金沢、八尾という移動の多い旅だったが、歴史の重み、日本建築の随所に見られる知恵等、多くの再発見が出来た。

鹿児島

D1 楊恵巨

9月1日から5日まで、江口さんと一緒に彼女の実家を訪ねていました。知覧と出水の武家屋敷、桜島、山川の砂蒸し温泉、阿久根市の大島、二人でいろいろな場所を巡り、毎日青空と共に、楽しい旅行ができました。今回、特に知覧と出水の武家屋敷について感じたことは、重伝建に指定されているにも関わらず普通に人が生活している、かつ観光客にも開放しており、とてもうまくいっているのではないかと思います。八尾もこのようになれかな。（笑）



編集後記にかえて

text_shiozawa

New York

ジュリーが終わるやいなやアメリカはNYへ、1ヶ月程行って参りました。滞在していた所はマンハッタンから電車で1時間弱の郊外でしたが、よく出かけて、いっそのことその街路たるや悉皆してみようかと思っても東の間、夢半ばにしてさすがにそれはあきらめました。そう思わせるだけでもコンパクトな街で、いろいろな性格のエリアが寄せ集まってひとつの都市をつくっていました。セントラルパークだけではなく、都市の中の公園には人が本当にごったがえしていて、カフェがあってパフォーマンスも繰り広げられている、かと思えば隠れたところに秘密のポケットパークがある。確かに、高密度の摩天楼かもしれないけど、地上レベルのそういう場所のせいか、どこか空間的余裕を感じさせました。

